

# 景況調査

報告書 NO. 24

平成16年 7月～9月 実績  
平成16年 10月～12月 見通し



蒲郡商工会議所  
中小企業相談所

# 平成16年度第2四半期(H16.7~9月)景況調査

1. 調査時点 平成16年10月

2. 調査対象  
 (1) 対象地区 蒲郡市内  
 (2) 対象(回答)企業 148[141企業、7団体 = 三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法 聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	58 (3)	11 (2)	22 (1)	33	14 (1)	10	148 (7)

( )は団体

## 5. 概況

**全業種総合判断DI値(当期実績)**は、**前年同期比**で見ると 23.0、前期(4~6月・16.5)と比較すると6.5ポイントの下降、**前期比**で見ると 26.4、前期(4~6月・14.5)と比較すると11.9ポイントの下降、いずれも悪化の傾向が見られた。また、**売上DI値**についても、前期比で見ると9.4、前期(4~6月・13.3)と比較すると3.9ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**収益DI値**は 28.4、前期(4~6月・20.2)と比較すると8.2ポイントの下降、悪化の傾向が見られた。**総合判断来期(H16.10~12月)見通し**については、6.1、前期(4~6月・17.7)と比較すると11.6ポイントの上昇、改善の傾向が見られる。

「**製造業**」のうち**食料品**は、季節的に需要の停滞期であり小売業者から値下げ要請もあり、利益確保が困難である。

**織物**は、ジャカードカーテン、ドビーカーテンともに、仕事量は少なく、また白生地織物も広幅・並幅を問わず、仕事量は少なく稼働率も70%程度である。先染織物についても、ほとんど仕事がなく、白生地を織っている。

**漁網・ロープ**のうち、繊維ロープは、出荷額はやや減少。輸入はPEロープを中心に増加傾向にある。漁網は、漁業不振、原材料高の不安材料があり、横パイにある。

**鉄工**のうち、工作機械関係は、輸出・国内向けとも、堅調に生産・売上进行している。自動車関連は、工賃は厳しいが、新車効果による高いレベルの生産・売上が続いている。

**化学・プラスチック**のうち、化学工業は、原油高による原材料費の増加により、収益は上がらない状況である。プラスチック加工は、自動車関連は好調であるが、原料高製品安の懸念が高い。

「**建設業**」は、全体としては厳しく、売上は上昇しており、鋼材等の価格上昇により採算面は厳しい。

「**卸売業**」のうち**繊維卸**は、産業資材関連：原料高・製品安の状況であり商品の動向がつかめない。寝装関連：秋冬物シーズンに入っており、少ロットであるが、機能商品・通販・訪問販売ルートは全体的にがんばっている。インテリア関連：5月からの落込みがひどく、例年益明けから良くなるが、今年は9月に入っても同じような状況である。衣料：年間最も苦しい時期に入っている。デフレ傾向が強く、輸入製品は激増しており、国内生産率の更なる低下が進んでいる。

「**小売業**」は、カインズ・ベイシアの開店により、個店のみならず大型店も売上に影響が出ている。TMO(中心市街地活性化)事業として、福寿稲荷ごりやく市が開催され、盛況裡を納め、今後月1回開催される。

**石油**は、6月に続いて9月の元売り仕切りも大幅な上げ局面を迎えている。7月から猛暑・酷暑でガソリンの販売が前年実績を大幅に上まわったところもあった。

「**サービス業**」のうち**旅館**関係は、浜名湖花博を目的とした団体客から7月以降個人客に変わり、海水浴客も不振で、オリンピック観戦など出控え、低調であった。9月より花博のお客も団体客にもどつつある。

「**運輸通信業**」のうち**旅客・貨物輸送・水運**は、海運関係：今期に入り新しい貨物の取扱いが開始され数量の拡大が図れた。陸運関係：貨物量については、前期に比べ8月の稼働日数の減少によって微減である。バス業界：選挙・異常気象・オリンピック・温泉問題等国内旅行に対するマイナス要因が続き悪化した。路線バスは、同様大幅減であった。

**設備投資状況**は、全般的には低調だが、回復のきざしがあり、40事業所(52件)で設備投資が実施され、生産設備・車両運搬具・OA機器が上位にランクした。来期は35事業所(48件)が設備投資を計画されている。

**経営上の問題点**では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化が項目別・業種別で上位を占めている。

**当地区においても**、依然としてデフレの長期化、雇用の停滞、個人消費の低調、設備投資の低調、原油価格高騰による原材料価格の上昇、住宅着工数の低調、中国・アジア製品の輸入拡大、円高等の影響により、7~9月期の業況判断DI(全業種全体)は、水面下にあり、悪化の方向にあるが、来期見通しについてはやや明るい。引き続き、集客力を誇る『ラゲーナ蒲郡』を核とした観光事業活性化、TMO事業による中心市街地の活性化、蒲郡港利用の再生、中小企業の経営支援などを推進する。

### 全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

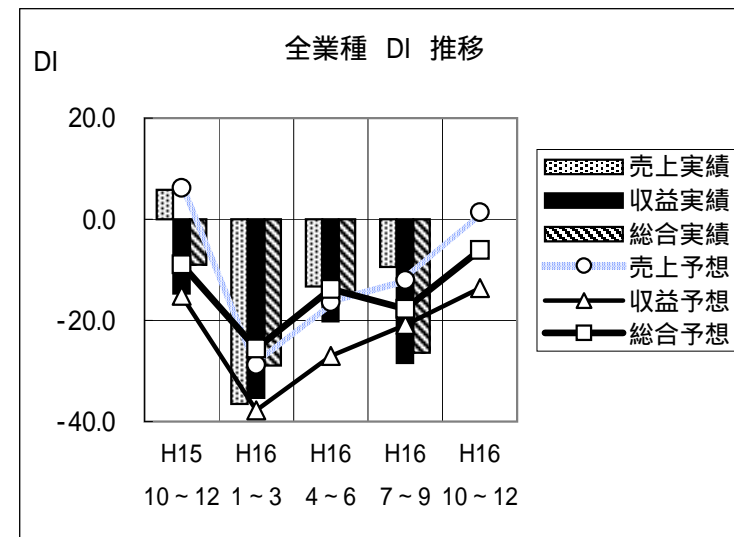
<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年7月~9月)	前期比 (平成16年4月~6月)	来期見通し (平成16年10月~12月)		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
生産額・売上額	-13.5	-9.4	1.4	H15.7~9月実績	-25.5	-12.4	-30.3	-20.0	-23.4	-14.4	-8.9
製品・商品在庫	-7.4	-10.1	-2.1	H15.10~12月実績	-19.9	5.8	-24.4	-14.7	-17.9	-9.0	-25.6
資金繰り	-19.6	-16.9	-9.5	H16.1~3月実績	-18.9	-36.5	-27.1	-35.3	-19.5	-28.9	-13.8
採算(収益)	-31.1	-28.4	-13.6	H16.4~6月実績	-17.1	-13.3	-24.0	-20.2	-16.5	-14.5	-17.7
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-4.1	-1.3	H16.7~9月実績	-13.5	-9.4	-31.1	-28.4	-23.0	-26.4	-6.1
貴社の業況(総合判断)	-23.0	-26.4	-6.1								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等 その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物 輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	H15.10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見込み
売上	5.8	-36.5	-13.3	-9.4	1.4
収益	-14.7	-35.3	-20.2	-28.4	-13.6
総合	-9.0	-28.9	-14.5	-26.4	-6.1

**DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数) について**  
 DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%) = 増加・良好などの割合 - 減少・悪化などの割合

(注) 生産額・売上額 : DI = (増加) - (減少)  
 製品・商品在庫 : DI = (減少) - (増加)  
 資金繰り : DI = (好転) - (悪化)

採算(収益) : DI = (上昇) - (下降)  
 従業員数 : DI = (不足) - (過剰)  
 業況(総合判断) : DI = (好転) - (悪化)

DIが0より大 → 景気上向き  
 DIが0 → 景気横ばい  
 DIが0より小 → 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上 DI 6～49% DI 5～-5%

DI -6～-49% DI -50%以下

## 6. 業種別報告

### 製造業

売上DI値は 5.2、前期実績4～6月期（ 1.8 ）に比して3.4ポイントの下降。収益DI値は 24.1、前期実績4～6月期（ 16.0 ）に比して8.1ポイントの下降、総合判断DI値は 20.7、前期実績4～6月期（ 10.7 ）に比して10.0ポイントの下降、いずれも悪化傾向であった。見通しとしては、収益は悪化傾向であり、売上・総合は改善傾向である。

### 製造業

(DI 単位: %)

	前年同期比 (平成15年7月～9月)	前期比 (平成16年4月～6月)	来期見通し (平成16年10月～12月)
生産額・売上額	-5.2	-5.2	8.6
製品・商品在庫	-8.7	-8.6	-5.2
資金繰り	-22.4	-17.3	-3.5
採算(収益)	-36.2	-24.1	-10.4
従業員数(含む臨時・パート)	1.7	-3.5	1.8
貴社の業況(総合判断)	-13.8	-20.7	3.4

### [食料品]

売上は前年同期比DI値 12.5%と悪化。季節的に需要の停滞期であり、前期比でもDI値 12.5%。収益は前年同期比DI値 37.5%、前期比ではDI値 12.5%と悪化。総合判断は前年同期比DI値 12.5%、前期比ではDI値 25.0%と総じて悪化傾向にある。

小売業者からの値下げ要請などにより利幅が縮小しており、量を売らないと利益確保が困難な状況である。台風の影響により水揚げが減少し材料確保が困難な企業もある。このような状況のなか、工場と事務所間のLAN構築による合理化や、販路開拓のためネット販売に本格的に力を入れていくなどの企業の取り組みが見られる。

向こう3ヶ月の見通し

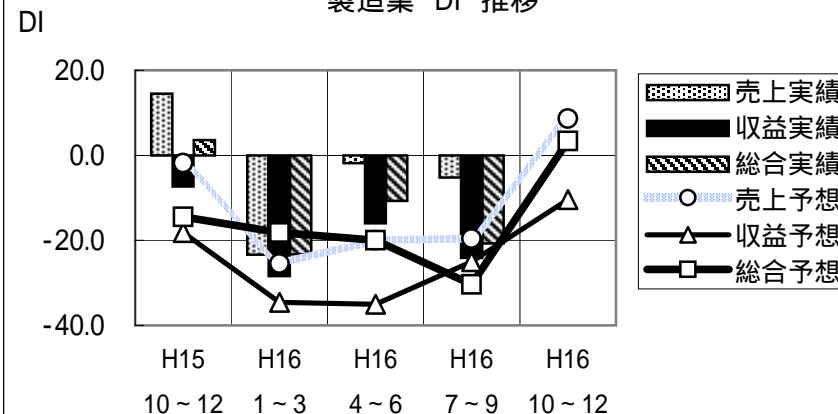
売上はDI値37.5%、収益はDI値12.5%、総合判断ではDI値37.5%。年末の需要期に入るため、今期に比べ売上は増加の見通しであり、総じて業況は好転の見込み。食の安全性への対応、海外での最終製品化の流れなど食品業界の課題は多く、厳しい経営環境にある。(食品部会)

### (食料品)

(DI 単位: %)

	前年同期比 (平成15年7月～9月)	前期比 (平成16年4月～6月)	来期見通し (平成16年10月～12月)
生産額・売上額	-12.5	-12.5	37.5
製品・商品在庫	12.5	12.5	25.0
資金繰り	-37.5	-25.0	0.0
採算(収益)	-37.5	-12.5	12.5
従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	-12.5	25.0
貴社の業況(総合判断)	-12.5	-25.0	37.5

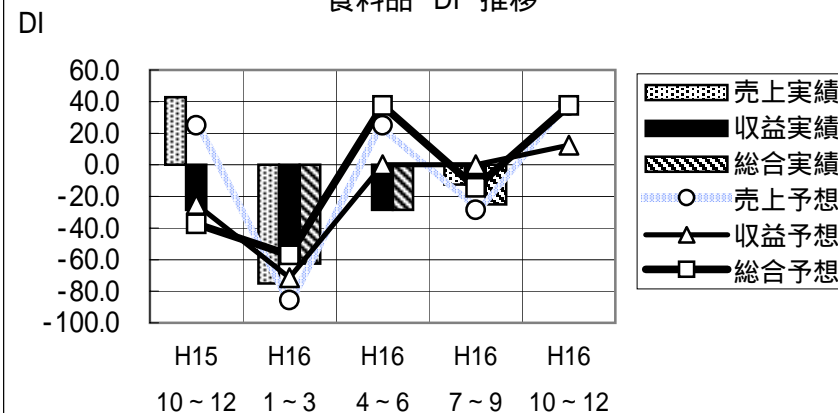
### 製造業 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	H15.10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見込み
売上	14.5	-23.4	-1.8	-5.2	8.6
収益	-7.3	-28.4	-16.0	-24.1	-10.4
総合	3.6	-23.3	-10.7	-20.7	3.4

### 食料品 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	H15.10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見込み
売上	42.8	-75.0	0.0	-12.5	37.5
収益	-28.6	-62.5	-28.6	-12.5	12.5
総合	0.0	-62.5	-28.6	-25.0	37.5

## [織物]

主力商品であるジャカードカーテンについては、全体的に仕事量は少なく、稼働率は50%前後である。ドビーカーテンについても、仕事量は少ない。白生地織物は、広幅・並幅を問わず仕事量は少なく稼働率は70%前後である。先染織物は、仕事が始どなく、白生地を織っている状況である。しかし、何れも原材料の上昇から採算面は非常に厳しい状況が続いており、期近発注による短納期化・少ロット化が進み稼働率は非常に悪くなっている。今後の見通し、ジャカードカーテンは、仕事量は多少回復し稼働率は60%程度にはなるものと期待している。ドビーカーテンも仕事量は多少回復する見込みである。白生地織物は、仕事量の増加は見込みうす、今期の横パイであれば上々と思われる。先染織物は、春夏物が主流であり仕事量の増加を期待しているが、現状と同じ状況が続くと思われる。採算面で非常に厳しい状況が続いている中で、原油高騰による影響で合繊糸が値上がり傾向となっており、工賃への圧迫が懸念されている。総体的に、長期に亘る業況不振の影響で資金繰りは非常に悪化しており、運転資金の新規借入れも難しい状況が続いている。(織維部会)

### (織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年7月~9月)	前期比 (平成16年4月~6月)	来期見通し (平成16年10月~12月)
生産額・売上額	-33.3	-22.3	33.4
製品・商品在庫	-33.3	-22.2	22.2
資金繰り	-44.4	-33.3	11.1
採算(収益)	-44.4	-22.2	11.1
従業員数(含む臨時・パート)	-11.1	-11.1	-11.1
貴社の業況(総合判断)	-44.5	-33.4	11.1

## [漁網・ローブ]

繊維ローブ：出荷額は、前年比やや減少。加えて原料高による収益圧迫の懸念がある。輸入はPEローブを中心に増勢傾向にある。需要面からクロマグロの人口ふ化・養殖の実用化に期待する声もある。

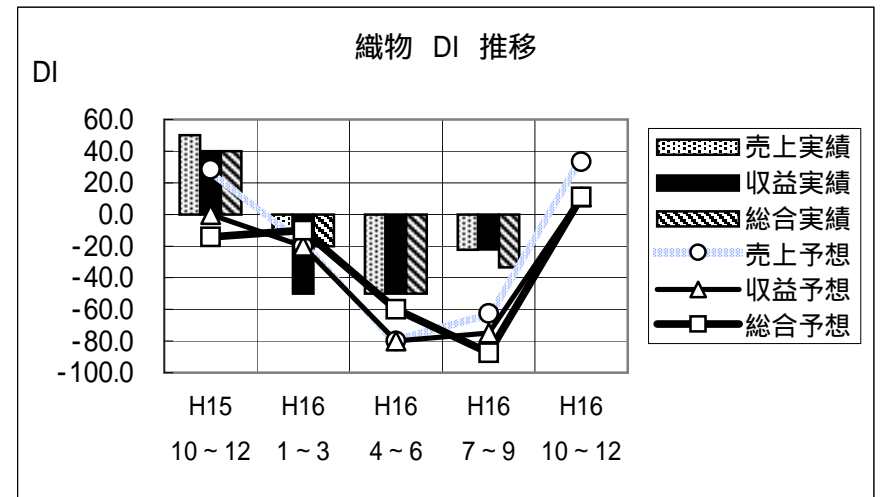
漁網：売上は前年比横パイであり、漁業不振、原料高の不安材料にある。

(繊維ローブ部会)

### (漁網・ローブ)

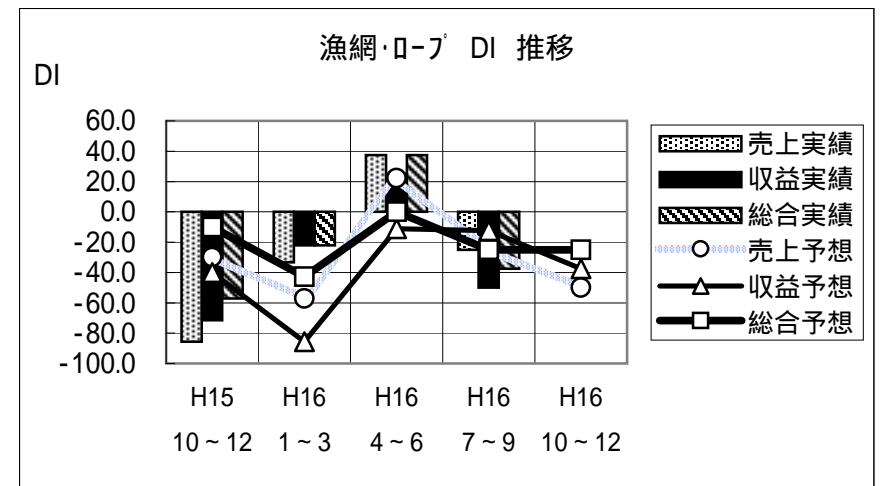
(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年7月~9月)	前期比 (平成16年4月~6月)	来期見通し (平成16年10月~12月)
生産額・売上額	-25.0	-25.0	-50.0
製品・商品在庫	-12.5	-12.5	-37.5
資金繰り	-25.0	-25.0	0.0
採算(収益)	-25.0	-50.0	-37.5
従業員数(含む臨時・パート)	25.0	12.5	0.0
貴社の業況(総合判断)	-12.5	-37.5	-25.0



### <業況判断DIの推移>

	H15.10~12月	H16.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見込み
売上	50.0	-10.0	-50.0	-22.3	33.4
収益	40.0	-50.0	-50.0	-22.2	11.1
総合	40.0	-20.0	-50.0	-33.4	11.1



### <業況判断DIの推移>

	H15.10~12月	H16.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見込み
売上	-85.7	-33.4	37.5	-25.0	-50.0
収益	-71.4	-22.2	25.0	-50.0	-37.5
総合	-57.1	-22.2	37.5	-37.5	-25.0

## [鉄工]

< 工作機械関係 >

総じて堅調に生産、売上を維持しており、受注残も増えており能力がいっぱいの所もある。要因は輸出(アメリカ・中国)に支えられており、国内も自動車向けを中心にIT関連向け設備に出ている。

< 自動車部品関係 >

依然として堅調に生産、売上を維持しており、小型車から大型車へシフトも見られ、新車効果による高いレベルの生産・売上が続いている。尚、値下げによる納入単価が厳しく、それに比例して収益は上がらず、各社まちまちである。懸念材料としては、ガソリンの高騰、為替の動向などがある。

向こう3ヶ月の見通しは

9月以降も一段と忙しく、総じて好調に生産、売上をあげて行くと思われる。(金属鉄工部会)

### (鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年7月~9月)	前期比 (平成16年4月~6月)	来期見通し (平成16年10月~12月)
生産額・売上額	33.3	33.3	11.1
製品・商品在庫	-5.6	-5.6	-16.6
資金繰り	-11.1	0.0	0.0
採算(収益)	-16.7	0.0	5.5
従業員数(含む臨時・パート)	22.2	11.1	5.5
貴社の業況(総合判断)	11.1	5.6	11.1

## [化学・プラスチック]

化学工業：原油高による原材料費の増加により、収益が上がらない状況である。

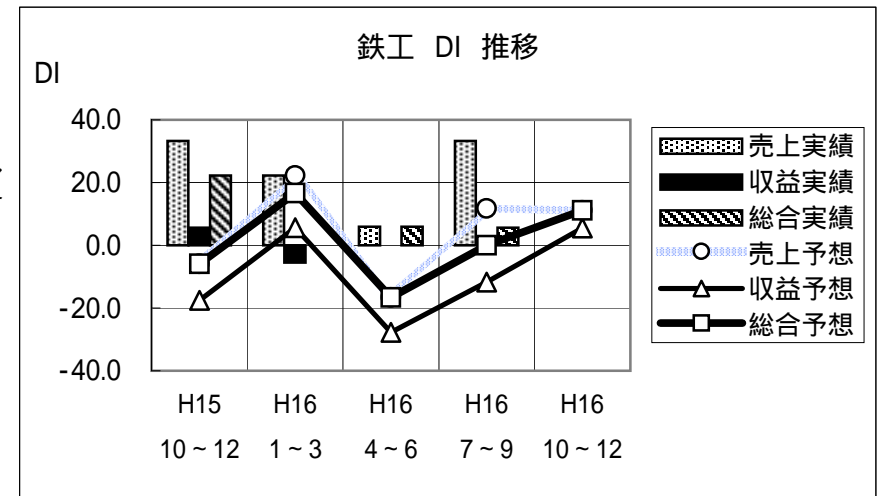
プラスチック製造加工：自動車関連の好調で全体的に売上は伸びているが、原料の単価が上昇しており、製品価格の上昇は交渉難で、利益面に大きくマイナスとなっている。

向こう3ヶ月の見通しは

厳しい仕入条件・販売条件で収益確保は困難になると思われる。(化学部会)

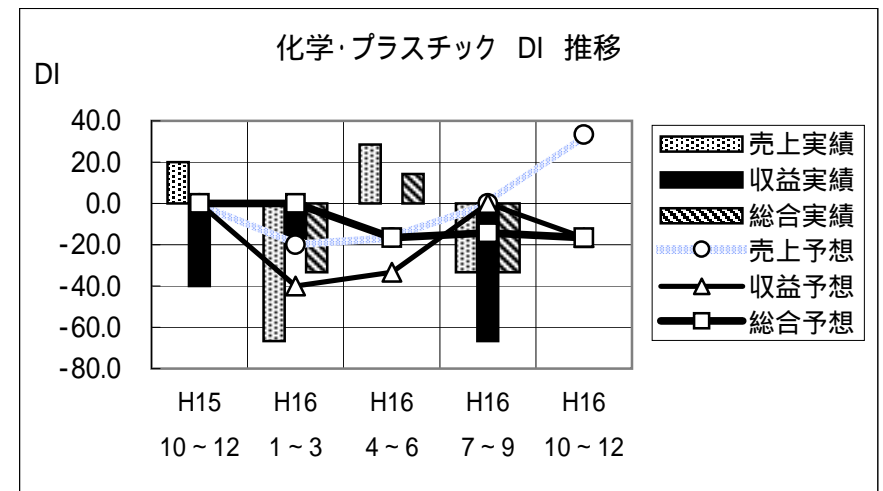
### (化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年7月~9月)	前期比 (平成16年4月~6月)	来期見通し (平成16年10月~12月)
生産額・売上額	0.0	-33.3	33.3
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-16.7	-16.7	-16.7
採算(収益)	-50.0	-66.7	-16.6
従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	-16.7	0.0
貴社の業況(総合判断)	-33.3	-33.3	-16.6



#### < 業況判断DIの推移 >

	H15.10~12月	H16.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見込み
売上	33.3	22.2	5.9	33.3	11.1
収益	5.6	-5.5	0.0	0.0	5.5
総合	22.2	0.0	5.9	5.6	11.1



#### < 業況判断DIの推移 >

	H15.10~12月	H16.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月見込み
売上	20.0	-66.7	28.6	-33.3	33.3
収益	-40.0	-16.6	0.0	-66.7	-16.6
総合	0.0	-33.3	14.3	-33.3	-16.6

## 建設業

売上DI値は9.1、前期実績4～6月期（23.1）に比して14.0ポイントの下降、収益DI値は18.2、前期実績4～6月期（7.7）に比して25.9ポイントの下降、総合判断DI値は9.1、前期実績4～6月期（15.4）に比して24.5ポイントの下降、いずれも悪化傾向である。見通しとしては、売上は改善傾向であり、収益・総合は悪化傾向にある。全体的には、従来どおり受注競争が激しく推移しているが、売上は前年同期比、前期比とも上昇している。鋼材等の価格上昇により採算面も厳しくなる傾向である。民間住宅工事は、動きが見られるものの公共工事は、削減ムードのなか、依然厳しい状況が続いている。向こう3ヶ月の見通しは、引き続き、この状況に大きく変わりないと思われる。（建設部会）

## 建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年7月～9月)	前期比 (平成16年4月～6月)	来期見通し (平成16年10月～12月)
生産額・売上額	36.3	9.1	9.1
製品・商品在庫	0.0	-9.1	-9.1
資金繰り	0.0	-9.1	-18.2
採算(収益)	-9.1	-18.2	-18.2
従業員数(含む臨時・パート)	18.2	9.1	27.3
貴社の業況(総合判断)	0.0	-9.1	-9.1

## 卸売業

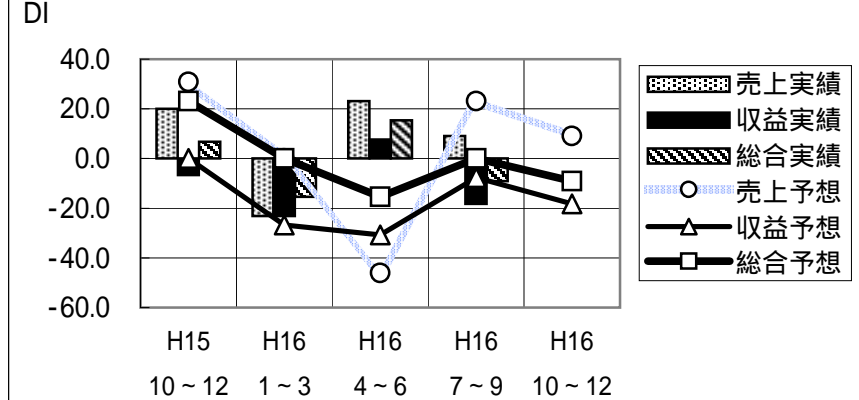
売上DI値は9.1、前期実績4～6月期（47.9）に比して38.8ポイントの上昇、収益DI値は40.9、前期実績4～6月期（21.8）に比して19.1ポイントの下降、総合判断DI値は45.5、前期実績4～6月期（30.4）に比して15.1ポイントの下降と、売上は改善傾向が見られ、収益・総合は悪化傾向であった。見通しとしては、売上は改善傾向であるが収益・総合は悪化傾向である。

## 卸売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年7月～9月)	前期比 (平成16年4月～6月)	来期見通し (平成16年10月～12月)
生産額・売上額	-45.5	-9.1	4.6
製品・商品在庫	-18.2	-31.9	9.1
資金繰り	-18.2	-13.7	-13.6
採算(収益)	-40.9	-40.9	-9.1
従業員数(含む臨時・パート)	-27.3	-31.8	-31.8
貴社の業況(総合判断)	-40.9	-45.5	-13.7

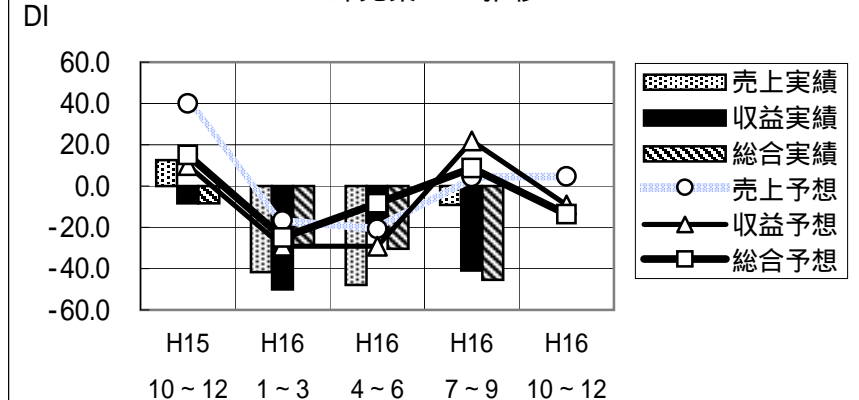
## 建設業 DI 推移



## < 業況判断DIの推移 >

	H15.10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見込み
売上	20.0	-23.1	23.1	9.1	9.1
収益	-6.7	-23.1	7.7	-18.2	-18.2
総合	6.7	-15.4	15.4	-9.1	-9.1

## 卸売業 DI 推移



## < 業況判断DIの推移 >

	H15.10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見込み
売上	12.5	-41.7	-47.9	-9.1	4.6
収益	-8.4	-50.0	-21.8	-40.9	-9.1
総合	-8.3	-29.2	-30.4	-45.5	-13.7

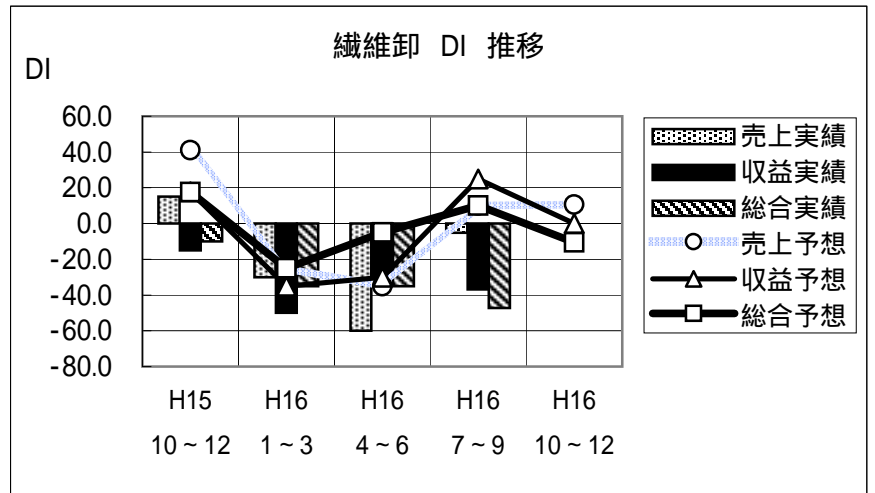
**[繊維卸]**

産業資材関連：原油高による原材料の値上げ、いわゆる合繊系の値上げが更に進んでいる。川下では価格ダウンの話ばかりである。この状況の中、春以後ますます荷動きが読めなく、更に悪くなって来ている。  
 寝装関連：秋冬物シーズンに入っており、年々少ロットの対応になっているが、機能商品、通販、訪問販売ルートが全体的には良い。  
 インテリア関連：5月からの落込みが極端にひどく、例年だと益明けから少しずつ良くなるが、今年は9月に入っても同じ状況が続いている。従って、産地の機屋の稼働率は50%位で、系染工場、整理加工工場とも仕事は低調である。  
 衣料関連：年間最も苦しい時期に入っている。過去においては、秋冬物の起毛商品の最盛期を向かえ繁忙を極めた時代もあったが、デフレの傾向が強く極端に減少しており、逆に輸入製品は激増しており国内生産比率の更なる低下が進んでいる。この環境の中で、過去、来シーズン春物商品用に大手SPA(GAP・ユニクロ等)の発注がこの時期行われたが、今のところなく、当面少ロットでのいである状態である。(繊維部会)

**(繊維卸)**

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年7月～9月)	前期比 (平成16年4月～6月)	来期見通し (平成16年10月～12月)
生産額・売上額	-47.4	-5.2	10.5
製品・商品在庫	-21.0	-36.9	5.3
資金繰り	-15.8	-10.5	-10.5
採算(収益)	-36.9	-36.9	0.0
従業員数(含む臨時・パート)	-31.6	-31.6	-31.6
貴社の業況(総合判断)	-42.1	-47.3	-10.5



**<業況判断DIの推移>**

	H15.10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見込み
売上	15.0	-30.0	-60.0	-5.2	10.5
収益	-15.0	-50.0	-30.0	-36.9	0.0
総合	-10.0	-35.0	-35.0	-47.3	-10.5

**小売業**

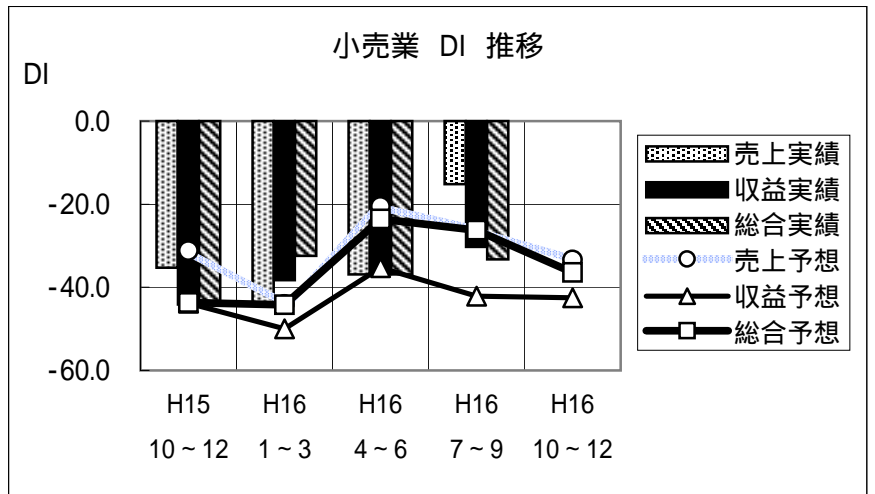
売上DI値は 15.2、前期実績4～6月期( 36.9)に比して21.7ポイントの上昇。収益DI値は 30.3、前期実績4～6月期( 36.8)に比して6.5ポイントの上昇、総合判断DI値は 33.3、前期実績4～6月期( 36.9)に比して3.6ポイントの上昇と、いずれも改善傾向であった。見通しとしては、いずれも悪化傾向である。  
 個人消費は低調に推移し、個店では売上が減少している。あわせて、大手ホームセンター・食品スーパー「カインズ」「ペイシア」の開店により、個店のみならず大型店も売上に影響が出ている。9月26日(日)蒲郡商店街(振)による蒲郡TMO事業の第1回「福寿稲荷ごりやく市」が開催され、大盛況のうち終了した。

向こう3ヶ月の見通し  
 「第49回がまごおり商業まつり」が10月1日(金)～31日(日)にかけて開催を予定し、各地区にて工夫を凝らしたイベントを行い、同時に個店の売上増をはかる。また10月24日(日)には第2回「福寿稲荷ごりやく市」と毎月第4日曜日開催の計画である。12月は特に、ボーナス時期になるので、個人消費の伸びと個店での購買・売上増を期待する。もうひとつの大型店の開店等も有り、あわただしくなるであろうと予想される。(商業部会)

**小売業**

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年7月～9月)	前期比 (平成16年4月～6月)	来期見通し (平成16年10月～12月)
生産額・売上額	-27.3	-15.2	-33.4
製品・商品在庫	-3.1	-3.1	-6.0
資金繰り	-33.3	-33.3	-33.3
採算(収益)	-39.4	-30.3	-42.5
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-9.1
貴社の業況(総合判断)	-36.4	-33.3	-36.4



**<業況判断DIの推移>**

	H15.10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見込み
売上	-35.3	-44.1	-36.9	-15.2	-33.4
収益	-44.1	-38.3	-36.8	-30.3	-42.5
総合	-44.1	-32.4	-36.9	-33.3	-36.4



## 【飲食】

夏休みのシーズンであったが、低調であった。一部では猛暑によりドリンクの需要が高まったというニュースもあったが、飲食店にはあまり影響が無かった。全体的に昼に比べて夜の動きが少ないように感じた。

### 向こう3ヶ月の見通し

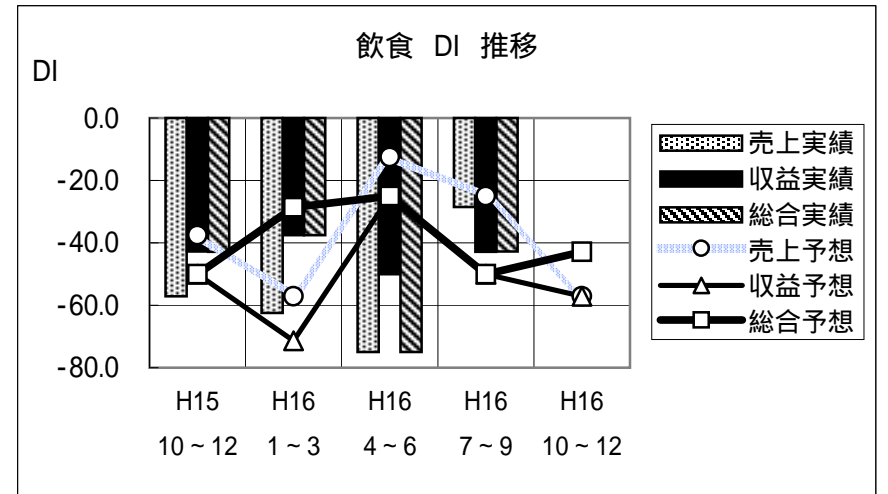
景気の回復がささやかれているが、忘年会等の会社関係の利用に期待する。蒲郡市では、新規顧客の開拓が難しいため、固定客を大切にしたい。

(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

## (飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年7月～9月)	前期比 (平成16年4月～6月)	来期見通し (平成16年10月～12月)
生産額・売上額	-28.5	-28.5	-57.1
製品・商品在庫	0.0	0.0	-14.3
資金繰り	-42.9	-57.1	-42.9
採算(収益)	-28.6	-42.9	-57.1
従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	-14.3	-28.6
貴社の業況(総合判断)	-42.8	-42.8	-42.9



### <業況判断DIの推移>

	H15.10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見込み
売上	-57.1	-62.5	-75.0	-28.5	-57.1
収益	-42.8	-37.5	-50.0	-42.9	-57.1
総合	-42.9	-37.5	-75.0	-42.8	-42.9

## 【石油等その他小売】

6月に続いて9月の元売仕切りも大幅な上げ局面を迎えている。昨年は、異常気象による冷夏で夏商戦は振るわなかったが、今年は7月からの猛暑・酷暑でガソリンの販売が前年実績を大幅に上回ったところもあった。しかし販売数量が伸びた分前年以上の支払資金が必要となった。9月の大幅な元売り仕切り上げを受けて、まずは「即転嫁」が重要であると同時にマージン回復が大きな課題のひとつである。

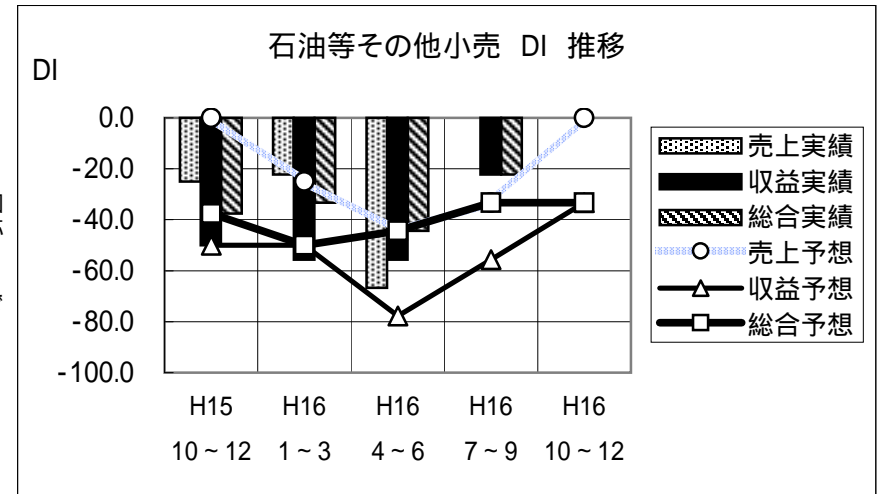
### 向こう3ヶ月の見通し

原油価格(WTI)は、50ドル台の史上最高値を更新する状況で高騰している。世界的な景気回復や中国の急成長に伴う大幅な需要増加、イラクなどの中東情勢悪化による供給不安、投機資金がエネルギー市場へ流入したことなどが高騰要因としてあげられるが、最近ではロシア最大の石油会社の操業停止懸念など、産油国の不安定要因が原油価格に敏感に反応している状況。国内も原油価格の高騰により、元売各社が今年に入って大幅な卸売価格改定を2月、4月、6月と発表し、9月も大幅な値上げの状況であり、このような原油価格の状況が10月～12月も継続すると思われる。業界としては、灯油需要期入りを控え、末端転嫁を確実にすることが最重要課題と思われる。まずは、ガソリンを筆頭に全油種にこれまでの未転嫁分まで含んだ価格は是正をし、収益確保を目指さなければならない状況である。(エネルギー部会)

## (石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年7月～9月)	前期比 (平成16年4月～6月)	来期見通し (平成16年10月～12月)
生産額・売上額	-44.5	0.0	0.0
製品・商品在庫	-11.1	-11.1	0.0
資金繰り	-33.3	-22.2	-22.2
採算(収益)	-66.7	-22.2	-33.3
従業員数(含む臨時・パート)	-11.1	-11.1	-11.1
貴社の業況(総合判断)	-33.3	-22.2	-33.3



### <業況判断DIの推移>

	H15.10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見込み
売上	-25.0	-22.2	-66.7	0.0	0.0
収益	-50.0	-55.6	-55.6	-22.2	-33.3
総合	-37.5	-33.3	-44.4	-22.2	-33.3

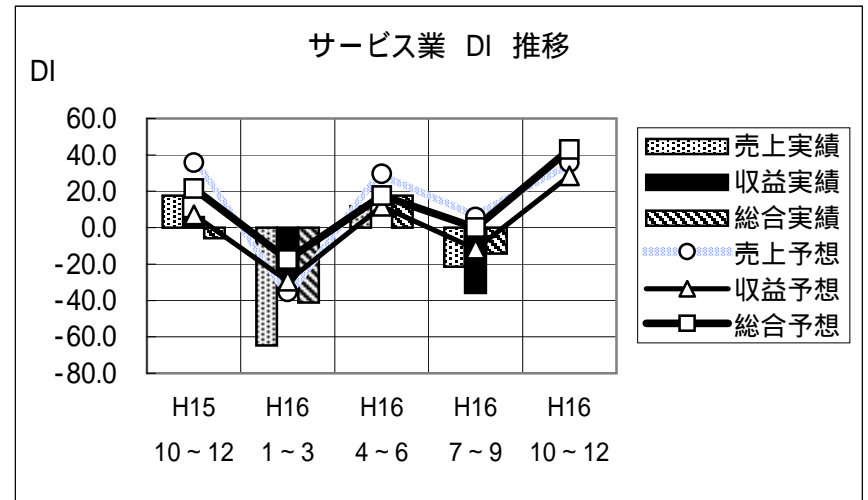
## サービス業

売上DI値は 21.4、前期実績4～6月期（11.8）に比して33.2ポイントの下降。収益DI値は 35.8、前期実績4～6月期（0.0）に比して35.8ポイントの下降、総合判断DI値は 14.3、前期実績4～6月期（17.6）に比して31.9ポイントの下降と、いずれも悪化傾向であった。見通しとしては、いずれも改善傾向である。

### サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年7月～9月)	前期比 (平成16年4月～6月)	来期見通し (平成16年10月～12月)
生産額・売上額	-14.3	-21.4	35.7
製品・商品在庫	-7.1	0.0	0.0
資金繰り	-7.2	0.0	28.6
採算(収益)	0.0	-35.8	28.6
従業員数(含む臨時・パート)	7.1	7.1	7.1
貴社の業況(総合判断)	-14.3	-14.3	42.9



#### < 業況判断DIの推移 >

	H15.10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見込み
売上	17.7	-64.7	11.8	-21.4	35.7
収益	5.9	-35.3	0.0	-35.8	28.6
総合	-5.8	-41.2	17.6	-14.3	42.9

## [旅館]

好調であった「花博」を目的とした団体宿泊客も、7月以降個人客に変わり、7月8月とも宿泊人員・売上は低調に推移した。昨年の天候不順に変わり、猛暑が続き海水浴客への期待感があったものの今まで抑制されていた海外旅行の増加、エアコン・テレビ等耐久消費財の購入による出控え、アテネオリンピック等のテレビ観戦等も低調に終わった一因である。ただし、9月に關しては、個人客から「花博」を目的とした団体客に変わり、昨年より好調な予約を確保した。

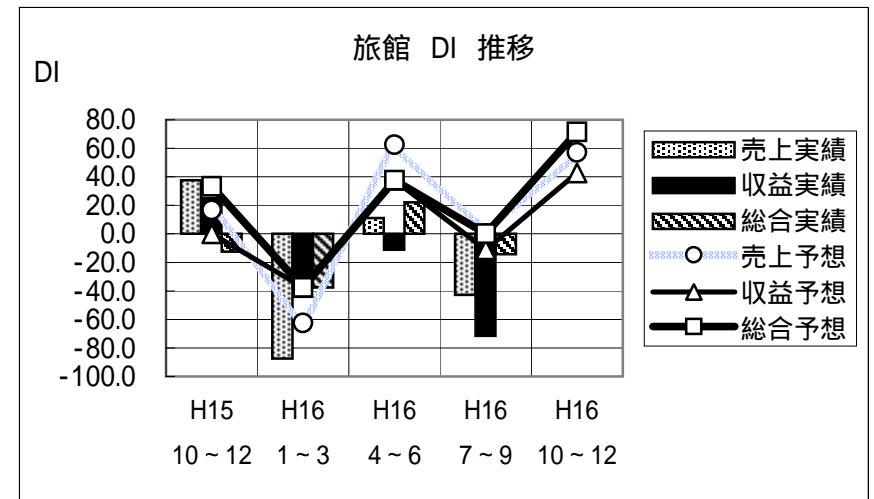
向こう3ヶ月の見通し

現在のところ昨年を若干上回る予約を確保している。秋の行楽、紅葉見物への期待、好調なトヨタ自動車とその関連会社の忘年会利用への期待、世間一般の景気回復感から少し明るい見通しが見込まれる。（観光部会）

### (旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年7月～9月)	前期比 (平成16年4月～6月)	来期見通し (平成16年10月～12月)
生産額・売上額	-28.6	-42.8	57.1
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	0.0	0.0	42.9
採算(収益)	0.0	-71.4	42.8
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-28.6	-14.3	71.4



#### < 業況判断DIの推移 >

	H15.10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見込み
売上	37.5	-87.5	11.1	-42.8	57.1
収益	25.0	-37.5	-11.1	-71.4	42.8
総合	-12.5	-37.5	22.2	-14.3	71.4

## 運輸通信業

売上DI値は 20.0、前期実績4～6月期(0.0)に比して20.0ポイントの下降。収益DI値は20.0、前期実績4～6月期(-45.4)に比して25.4ポイントの上昇。総合判断DI値は30.0、前期実績4～6月期(-9.1)に比して20.9ポイントの下降と、収益は改善傾向であるが、売上・総合とも悪化傾向であった。見通しとしては、売上は改善傾向であるが総合は悪化傾向にある。

## 運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年7月～9月)	前期比 (平成16年4月～6月)	来期見通し (平成16年10月～12月)
生産額・売上額	0.0	-20.0	10.0
製品・商品在庫	0.0	-10.0	10.0
資金繰り	0.0	0.0	0.0
採算(収益)	-20.0	-20.0	0.0
従業員数(含む臨時・パート)	20.0	10.0	30.0
貴社の業況(総合判断)	-30.0	-30.0	-10.0

## [旅客・貨物輸送・水運]

海運関係：今期に入り、新しい貨物(3品目)の取扱いが開始され、扱い数量の拡大が図れた。  
今後の見通し、新しい貨物の取扱いに伴い、更なる新規顧客の反応が多く見受けられ、今後の見通しが明るい。

陸運関係：貨物量については、前期に比べ8月の夏期休暇による稼働日数の減少によって微減であった。酷暑によるシーズン商品は活発であった。

特定地域における車両の代替、随時スピードリミッターの取り付け、燃料単価、タイヤ等消費財の高騰による影響で業界の環境は引き続き悪い。また暫定軽油引取税7.8円の撤廃、高速道路使用料の値下げ割引率の見直し等も引き続き要請している。

今後の見通し、冬物の動向により貨物量は大きく変動するものと思われる。ぜひ活発な動きを期待している。

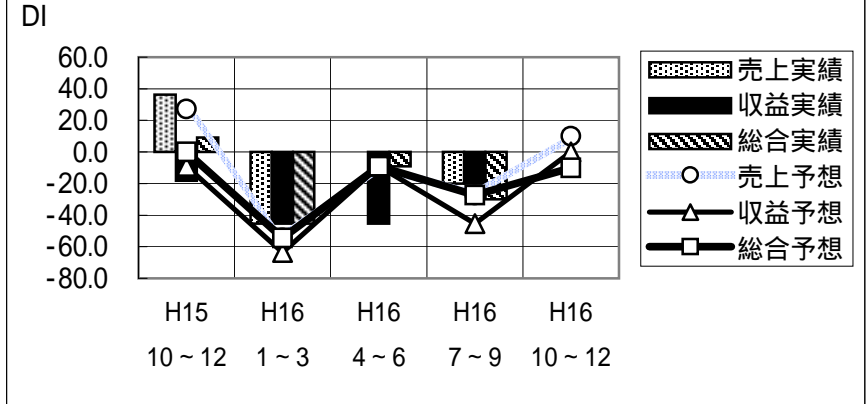
バス業界関係：選挙・異常気象・オリンピック・温泉問題等国内旅行に対するマイナス要素も目立ち、前期比、前年同期比とも悪化、「万博」輸送の計画もなかなか具体化せず先行きは混迷している。乗合バスも貸切同様大幅減となった。(運輸交通港湾部会)

## (旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成15年7月～9月)	前期比 (平成16年4月～6月)	来期見通し (平成16年10月～12月)
生産額・売上額	0.0	-14.2	28.5
製品・商品在庫	0.0	-14.3	14.3
資金繰り	0.0	0.0	0.0
採算(収益)	-28.5	-28.5	28.5
従業員数(含む臨時・パート)	28.6	14.3	28.6
貴社の業況(総合判断)	-42.9	-42.9	0.0

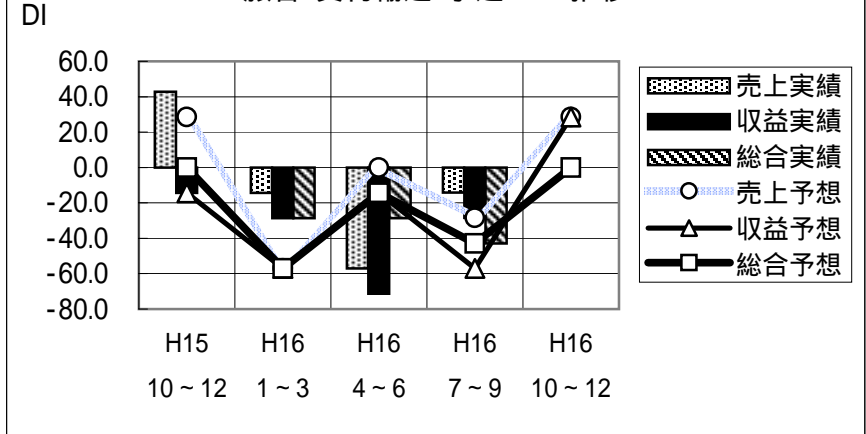
## 運輸通信業 DI 推移



## <業況判断DIの推移>

	H15.10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見込み
売上	36.3	-45.4	0.0	-20.0	10.0
収益	-18.2	-45.4	-45.4	-20.0	0.0
総合	9.1	-45.4	-9.1	-30.0	-10.0

## 旅客・貨物輸送・水運 DI 推移

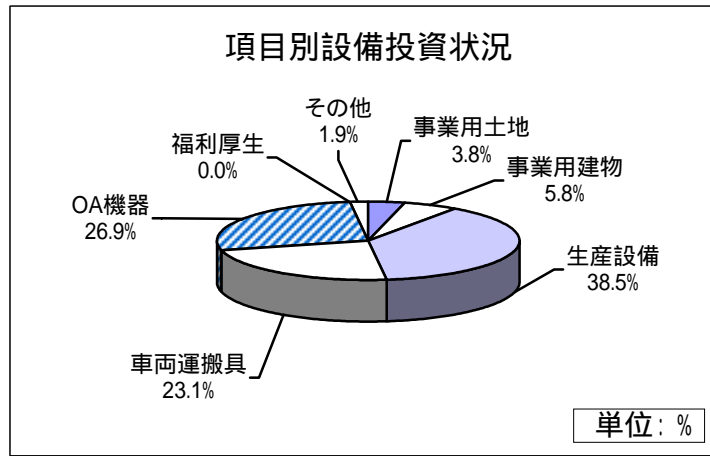
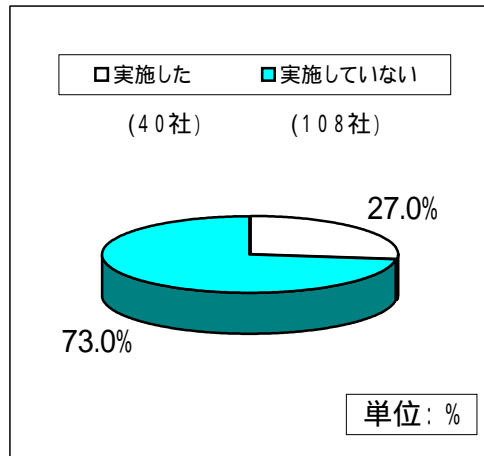


## <業況判断DIの推移>

	H15.10～12月	H16.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月見込み
売上	42.8	-14.3	-57.1	-14.2	28.5
収益	-14.3	-28.6	-71.4	-28.5	28.5
総合	0.0	-28.6	-28.6	-42.9	0.0

## 7. 設備投資動向

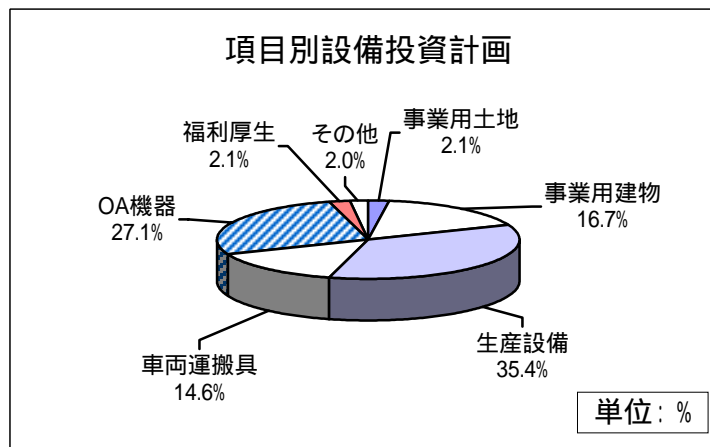
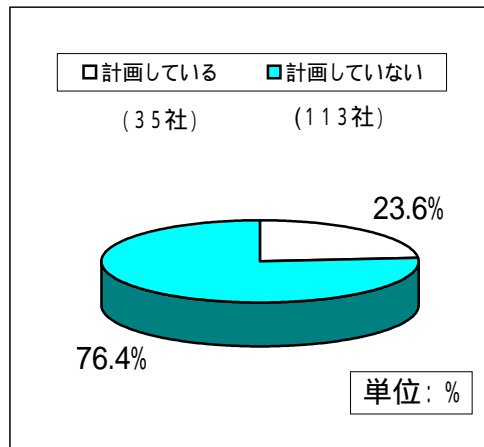
< 今期(H16.7~9月)設備投資実施状況 全業種 >



・7~9月期に設備投資を実施した企業は、40社(27.0%)あり、項目別には52件ある。そのうち生産設備(38.5%)、OA機器(26.9%)、車両運搬具(23.1%)に投資された。

・10~12月期に設備投資計画のある企業は、35社(23.6%)あり、項目別には48件ある。そのうち、生産設備(35.4%)、OA機器(27.1%)、車両運搬具(14.6%)の投資計画である。

< 来期(H16.10~12月)設備計画 全業種 >



設備投資・計画内容(全業種)

	今期	来期見通し
事業用土地	2	1
事業用建物	3	8
生産設備	20	17
車両運搬具	12	7
OA機器	14	13
福利厚生	0	1
その他	1	1
計	52	48

(単位: 件)

今期(H16.7~9月)、来期(H16.10~12月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サ-ビス業	運輸通信業
1. 今期(H16.7~9月)	40	24	1	5	3	2	5
2. 来期(H16.10~12月)	35	20	1	4	4	2	4

(単位: 事業所)

## 8. 経営上の問題点

### 項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 148 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	94 63.5%
2	利幅の縮小	85 57.4%
3	競争激化	71 48.0%
4	原材料(燃料)高	33 22.3%
5	消費者ニーズの変化の対応	28 18.9%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

- ・項目別経営上の問題点は、前回と比べ順位は同じである。
- ・業種別経営上の問題点は、全業種とも1位に『売上の停滞・減少』と『利幅の縮小』をあげている。

### 業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業	売上の停滞・減少 58社 35社 60.3%	利幅の縮小 34社 58.6%	競争激化 23社 39.7%
建設業	利幅の縮小 11社 8社 72.7%	競争激化 7社 63.6%	売上の停滞・減少 5社 45.5%
卸売業	売上の停滞・減少 22社 15社 68.2%	利幅の縮小 14社 63.6%	競争激化 10社 45.5%
小売業	売上の停滞・減少 33社 23社 69.7%	競争激化 21社 63.6%	利幅の縮小 15社 45.5%
サ・ビス業	売上の停滞・減少 14社 10社 71.4%	消費者ニーズの変化の対応 9社 64.3%	利幅の縮小 6社 42.9%
運輸通信業	利幅の縮小 10社 8社 80.0%	売上の停滞・減少 6社 60.0%	競争激化 5社 50.0%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

## 付帯調査(地域デ - タ)

番号	調査項目	単位	H16.10報告	基準日	H16.7報告	基準日	H16.4報告	基準日	参照資料
1	人口	人	81,835	H16.10.1	81,826	H16.7.1	81,893	H16.4.1	市民課住民基本台帳
2	世帯数	世帯	27,297	H16.10.1	27,223	H16.7.1	27,156	H16.4.1	"
3	15才～65才生産人口	人	54,328	H16.10.1	53,387	H16.7.1	54,405	H16.4.1	市民課
4	外国人登録者数	人	1,507	H16.9.30	1,461	H16.6.30	1,408	H16.3.31	"
5	建築確認届出件数	件	132	H16.6月～16.8月	128	H16.3月～16.5月	114	H15.12月～16.2月	建築住宅課受付件数(別紙参照)
6	全国完全失業率	%	4.8	H16.8月	4.6	H16.5月	5.0	H16.2月	総務省(別紙参照)
	愛知県完全失業率	%	3.7	H16.4～6月	3.7	H16.1～3月	4.0	H15.10～12月	総務省(愛知県産業労働総務課より)
7	全国有効求人倍率	倍	0.83	H16.8月	0.80	H16.5月	0.77	H16.2月	総務省(別紙参照)
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.86	H16.8月	0.85	H16.5月	0.83	H16.2月	蒲郡公共職業安定所(業務月報より)

### ラグーナ蒲郡 入園・入館者数

#### (1) ラグナシア

(単位:千人)

実数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
H14年度	38	137	95	114	274	91	72	66	65	50	25	69	1,096
H15年度	54	85	40	74	237	54	38	45	48	35	22	47	779
H16年度	51	98	36	90	225								500

目標数: H14年度100万人、H15年度100万人、H16年度90万人

(単位:%)

前年比	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
H15/H14	142.1	62	42.1	64.9	86.5	59.3	52.8	68.2	73.8	70	88	68.1	71.1
H16/H15	94.4	115.3	90	121.6	94.9								102.0

#### (2) フェスティバルマーケット

(単位:千人)

実数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
H14年度		219	390	295	504	294	252	253	239	238	186	248	3,118
H15年度	232	293	249	254	399	213	207	219	227	212	189	220	2,914
H16年度	210	282	204	222	341								1,259

目標数: H14年度220万人、H15年度250万人、H16年度290万人

(単位:%)

前年比	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
H15/H14		133.8	63.8	86.1	79.2	72.4	82.1	86.6	95	89.1	101.6	88.7	93.5
H16/H15	90.5	96.2	82.9	87.4	85.5								88.2

#### (参考)

	夏休み(万人)					盆休み(万人)				
	H14	H15	前年比	H16	前年比	H14	H15	前年比	H16	前年比
ラグナシア	35	30	85.7%	30	100.0%	11	8	72.7%	10	125.0%
FM	48	53	110.4%	47	88.7%	20	16	80.0%	13	81.3%

(9/22セミナー資料による)

製造業事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移  
(従業者4人以上事業所分)

年 別	蒲 郡 市						愛知県	
	事業所数	対前年比	従業者数	対前年比	出荷額等(億円)	対前年比	出荷額等(億円)	対前年比
昭和53年	897		12,248		1,643		161,231	
昭和54年	882	-1.7%	12,257	0.1%	1,817	10.6%	177,853	10.3%
昭和55年	875	-0.8%	12,282	0.2%	1,949	7.3%	206,103	15.9%
昭和56年	884	1.0%	12,370	0.7%	1,979	1.5%	219,034	6.3%
昭和57年	876	-0.9%	12,060	-2.5%	1,980	0.0%	227,835	4.0%
昭和58年	930	6.2%	12,485	3.5%	2,019	2.0%	234,606	3.0%
昭和59年	899	-3.3%	12,519	0.3%	2,161	7.0%	256,703	9.4%
昭和60年	913	1.6%	12,811	2.3%	2,256	4.4%	279,672	8.9%
昭和61年	897	-1.8%	12,766	-0.4%	2,248	-0.3%	274,514	-1.8%
昭和62年	860	-4.1%	12,479	-2.2%	2,216	-1.4%	274,258	-0.1%
昭和63年	880	2.3%	12,660	1.5%	2,300	3.8%	300,757	9.7%
平成元年	820	-6.8%	12,320	-2.7%	2,449	6.5%	330,023	9.7%
平成2年	846	3.2%	12,603	2.3%	2,582	5.4%	366,039	10.9%
平成3年	803	-5.1%	12,430	-1.4%	2,690	4.2%	387,660	5.9%
平成4年	766	-4.6%	11,950	-3.9%	2,648	-1.5%	381,058	-1.7%
平成5年	776	1.3%	11,808	-1.2%	2,445	-7.7%	354,713	-6.9%
平成6年	719	-7.3%	11,189	-5.2%	2,333	-4.6%	337,414	-4.9%
平成7年	701	-2.5%	10,783	-3.6%	2,242	-3.9%	336,413	-0.3%
平成8年	642	-8.4%	10,555	-2.1%	2,285	1.9%	352,345	4.7%
平成9年	624	-2.8%	10,454	-1.0%	2,352	3.0%	366,595	4.0%
平成10年	674	8.0%	10,759	2.9%	2,334	-0.8%	349,483	-4.7%
平成11年	606	-10.1%	9,998	-7.1%	2,183	-6.4%	330,531	-5.4%
平成12年	593	-2.1%	9,891	-1.1%	2,159	-1.1%	343,361	3.9%
平成13年	535	-9.8%	9,673	-2.2%	2,082	-3.5%	345,364	0.6%
平成14年	474	-11.4%	9,183	-5.1%	1,911	-8.2%	345,249	0.5%
平成15年	498	5.1%	9,299	1.3%	1,979	3.5%	354,765	2.7%

あいちの工業 工業統計調査結果報告書より  
製造品出荷額等は、1年間における製造品出荷額、加工賃収入額、修理料収入額などの収入額  
合計であり、消費税額を含んだ額。

# 全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費		
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除)前年比	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 前期比(%)年率	消費支出 (全国勤労者)前年比%	新車新規登録届出数 (乗用車 季調・万台)	
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515	3.4	1.0	707.7	
1997年度	236	3.5	0.69	3.9	1,341,347	520	0.2	0.2	672.5	
1998年度	平均 294	4.3	0.5	18.6	1,179,536	514	0.8	0.8	587.9	
1999年度		320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	508	0.9	1.8	586.1
2000年度	320	4.7	0.62	16.6	1,213,157	513	3.0	1.2	596.3	
2001年度	348	5.2	0.56	12.6	1,173,170	501	1.2	3.4	590.6	
2002年1月	344	5.3	0.51	22.2	84,196	497	2.4	0.9	36.9	
2月	356	5.3	0.50	16.1	85,775			5.6	51.7	
3月	379	5.2	0.51	22.0	88,865			2.5	77.2	
4月	375	5.2	0.52	17.9	98,924			0.6	40.3	
5月	375	5.4	0.53	16.6	106,110			2.7	42.1	
6月	368	5.4	0.53	7.6	101,502			2.0	50.2	
7月	352	5.4	0.54	5.8	96,245			0.5	52.7	
8月	361	5.4	0.54	20.3	97,653			0.9	36.6	
9月	365	5.4	0.55	2.7	97,238			4.5	56.4	
10月	362	5.5	0.56	1.9	103,567			1.0	44.3	
11月	338	5.3	0.57	7.2	98,664			2.3	48.1	
12月	331	5.3	0.59	0.3	92,184			1.1	43	
2003年1月	357	5.5	0.60	18.8	82,770	494	0.1	2.0	38	
2月	349	5.2	0.61	1.4	83,399			1.3	52.6	
3月	384	5.4	0.60	11.7	87,297			2.6	82.3	
4月	385	5.4	0.60	4.3	100,276			1.2	37.9	
5月	375	5.4	0.61	12.2	97,970			*4.3	1.1	42
6月	361	5.3	0.61	12.1	115,081			1.1	49.7	
7月	342	5.3	0.62	6.1	98,718			4.2	52.5	
8月	333	5.1	0.63	12.2	92,406			*2.2	0.6	35.5
9月	346	5.1	0.66	0.6	98,369			2.0	57.2	
10月	343	5.2	0.70	23.1	104,572			0.9	46.1	
11月	330	5.1	0.73	13.4	98,399			*7.6	0.1	45.8
12月	300	4.9	0.77	18.4	100,826			0.0	43.6	
2004年1月	323	5.0	0.77	3.0	88,797	*507	*6.4	1.0	40.4	
2月	330	5.0	0.77	9.3	84,950			5.2	53.5	
3月	333	4.7	0.77	0.2	93,285			0.1	84.9	
4月	335	4.7	0.77	16.9	96,178			4.0	37.7	
5月	319	4.6	0.80	8.8	98,889			*1.3	4.3	39.6
6月	309	4.6	0.82	10.4	106,582			2.6	48.2	
7月	318	4.9	0.83	0.3	106,462			—	0.9	52.3

(総務省)

(内閣府)

(国土交通省)

\*は速報値(内閣府)

(総務省)(日本自動車販売協会連合会)